

風土記の丘の花だより²¹⁰

今、そしてこれから見られる植物(2023年11月4日)

風土記まつりはおかげさまで晴天に恵まれ、盛況に開催できました。ご協力ありがとうございました。でも少し寒かったです。これから暖くなったり、寒くなったりを繰り返して、晩秋に向かっていくのでしょう。さて、今回も4種類の植物を紹介します。



このごろキクが続きますが、万葉植物園でリュウノウギクが咲き始めました。竜腦とは、香料の一種で良い香りがするのですが、私にはだだのキクの香りとしか感じません。何しろ本物の竜腦を知りませんので「これが竜腦の香りなんだ」と自分に言い聞かせています。でもまあ、何はともあれ、そんな香りがするキクです。花びらは真っ白で真ん中が黄色、どこから見てもキクそのものです。株によって花びらに多少の広い狭いは見られますが、それほどの変異はないように思います。



続いてキク科の植物ですが、上のキクのようにキクラしくありませんね。これはコウヤボウキの花です。高野山では竹の代わりにこの枝でほうきを作ったと言い伝えられているので、この名前が付いています。この植物は、花の咲かない枝(上)と、咲く枝(下)では葉の付き方が違



います。興味があれば、実際に手にとって観察してみてください。(なければ通り過ぎてください。)



暑い頃にオレンジ色のきれいな花を咲かせていたヒオウギに真っ黒な実ができました。万葉集の歌にもよく出てくる「ぬばたま」はこの実のことです。真っ黒なので、黒、髪、夜、闇などの枕詞として用いられています。たとえば「ぬばたまの 吾が黒髪を引きぬらし 乱れてさらに 恋ひわたるかも」「居明かして 君をば待たむ ぬばたまの 吾が黒髪に 霜は降るとも」など80首ほどの歌が残っています。



谷山家住宅の庭に台湾ホトトギスがよく咲いています。普通台湾を付けずにホトトギスと呼ばれることが多いですね。この台湾ホトトギスは茎の先が枝分かれして、たくさんの花を付けますが、ホトトギスは節ごとに少しずつ花を付けます。でもいまでは色々ときれいな園芸品種があるようです。私たちは専門的な研究者じゃないのですから、どれも全部ホトトギスでいいんじゃないでしょうか。深く考えず、秋の花を愛でましょう。 松下